令和2年度（2020年度）

第１回熊本博物館協議会

令和2年7月29日（水）午後2時

熊本博物館

次　第

1　開会

2　新任委員紹介

3　主催者挨拶

4　会長挨拶

5　議事

(1)令和元年度事業報告について

1. 展示活動(特別展・企画展等)
2. 博物館における教育・普及活動
3. 資料収集
4. 保存修理事業関係
5. 令和元年度入館者状況
6. 塚原歴史民俗資料館関係

(2)令和2年度事業計画変更事項について

1. 展示活動(特別展・企画展等)
2. 博物館における教育・普及活動
3. 保存修理事業関係
4. 施設整備事業関係
5. 塚原歴史民俗資料館関係
6. その他

6　閉会

議事

（1）令和元年度事業報告について

１．展覧会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ　２

２．博物館における教育・普及活動・・・・・Ｐ 10

３．資料収集・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 26

４．保存修理事業関係・・・・・・・・・・・Ｐ 27

５．令和元年度入館者状況・・・・・・・・・Ｐ 27

６．塚原歴史民俗資料館関係・・・・・・・・Ｐ 28

〈熊本博物館関係〉

１． 展覧会

（１） 特別展

事業名　世界の昆虫

目　的　世界各地の美しい昆虫・珍しい昆虫を紹介することにより、昆虫の世界に興味をもっていただく。また、熊本県内で採集された昆虫も展示し、身近な知られざる昆虫の魅力を伝えることで足元の自然に目を向け、自然保護や生物多様性の保全について考えるきっかけとしていただく。

内　容　特別展示室１・２・３

１：現在東海大学で収蔵されている標本
（三宅コレクション：海外の甲虫類を中心に）
１４８箱 約２４００点を展示

２：栗林彗氏が撮影した巨大写真の展示, 同映像コーナー

その他：栗林氏の講演会（プラネタリウム室にて）
学芸員によるギャラリートーク４回



期　間　７月 20 日（土）～８月２５日（日）

成　果　入場者数 17,126 人

備　考　会期後半になって来場者が増えたが、前半の客足は伸びなかった。実行委員会（放送局や新聞社等）のパートナーがコマーシャルを流してくれたが、多くの人が目にする時間帯には流れなかったようだ。来館者アンケート等で調査したわけではないが、「コマーシャルを見て来た」という声は聞かれず、宣伝成果は実感できなかった。今後、実行委員会と組んで開催する際には、広報手段の詳細も詰めたうえで実施したい。また、今後の反省に生かすため、必ず来館者アンケートを取るよう心がけたい。

事業名　追憶の熊本ー画家・甲斐青萍が描いた熊本城下の記憶ー

目　的　昨今、熊本地震からの復興とともに、中心市街地の開発が進むことで熊本の町並みが大きく変貌する中、熊本城下の歴史を辿り、これからの城下の未来を考える。

内　容　特別展示室１・２・３

熊本出身の画家・甲斐青萍（1882-1974）が描いた幕末・明治・昭和の熊本城下の町並図屏風を中心として、熊本城下の歴史的変遷を辿るもの。第１章「熊本城下の成り立ちとその発展」、第２章「熊本城下の近代化」、第３章「追憶の熊本ー熊本城下の『未来』へー」という３部で構成した。

１０月２日（土）は熊本大学名誉教授・伊藤重剛氏による講演会（44 人参加）、１０月 26 日（土）は同じく伊藤氏を案内役に迎え、甲斐青萍が描いた場所

を辿るまち歩き（12 人参加）、11 月４日（月・振休）はＮＰＯ法人熊本まちなみトラスト事務局長・冨士川一裕氏による講演会（28 人参加）を開催した。このほか、担当学芸員によるギャラリートークを４回開催した（各回約 10 人程度参加）。

期　間　10月５日～11 月 24 日（日）

成　果　入場者数　1,366 人

備　考　本展は会期初日と熊本城特別公開初日が重なったことにより、双方を行き来する相乗効果を期待したが、残念ながらそうはならなかった。マスコミ取材も熊本城に集中し、本展はあまり取り上げられなかったのが残念である。今後は、熊本城・博物館・美術館・伝統工芸館・わくわく座といった城域周辺施設の周回コースを確立していく必要があるだろう。特に子どもや若い世代の観覧が非常に少なく、今後の大きな課題となった。また、来館時に入場料を支払い、展覧会会場受付でさらに観覧料を支払うという二重課金のシステムであったため、会場前で観覧を躊躇したり、やめたりする来館者の姿が多くみられ、今後は料金システムを十分に検討していくべきである。



（２）企画展・共催展

事業名　企画展：「きらめく！大名道具ー細川家の「華」と「武」の世界ー」
（熊本県立美術館連携展）

目　的　リニューアルで装いも新しくなった特別展示室を新たな展示場所として、当館が管理している公益財団法人 永青文庫所蔵資料を公開。また、今回は初の試みとして熊本県立美術館との連携展として開催し、両館の相乗成果を図った。

内　容　特別展示室１・２・３

当館では、特別展示室１において婚礼調度品類を、特別展示室２においては武具類を中心に展示。美術館では、「きらめく！大名道具ー細川家の「文」の世界ー」と題し、絵画や能面などを中心に展示。期間中、５月６日（月・振休）と６月９日（日）の２回にわたり、熊本城おもてなし武将隊を迎え、博物館・美術館の両学芸員によるリレーミュージアムトークを行った。

期　間　４月20日（土）～7月７日（日）

成　果　入場者数　19,486 人（開催期間博物館入場者数）

備　考　本展は熊本県立美術館との初の連携展となり、共通のテーマを設定することで、両館への来館を促した。本展は準備期間が非常に少なかったが、今後継続的な取り組みとして実施していくのかどうか、改めて交渉していく必要があるだろう。



事業名　共催展　「地質の日」企画　身近に知る「くまもとの大地」
目　的　熊本の大地に関する普及・啓発
内　容　熊本県内の大学・博物館・地質関連団体が共同で「くまもとの大地」に関する展示を行った。植物食恐竜プロバクトロサウルスの全身骨格や姉妹都市モンタナ州産のティラノサウルスの頭骨も展示した。併せて、びぷれす広場でも同様の展示と体験イベントを行った。
期　間　【びぷれす広場】５月１１日（土）
　　【熊本博物館】　５月１２日（日）～6月２日（日）
成　果　【びぷれす広場】約 900 人（フズリナ体験 115 人）
　　【熊本博物館】　入場者数　3,463 人
　　（開催期間博物館入場者数）



備　考　中心市街地での前日イベントとリンクした共催展で、連日参加の来館者もみられた。ただしこのように連続で行うと恐竜の組み立てなどの設置作業が夜間まで及んだため、同様の展示を計画する場合は開館時刻と開場時刻をずらすことも必要か。

事業名　企画展　自然のおいしい味わい方
目　的　食と身近な自然に関する普及・啓発
内　容　特別展示室３
　身近にいる「実は食べてみるとおいしい生き物」のレシピや、人の食生活と関わりの深い生き物、自然にあるおいしそうな石など、博物館的な視点で「自然と食」について考える展示会。
期　間　6月8日（土）～7月7日（日）
備　考　来場者から「新聞記事を見て来た」という声が多々聞かれた。入場者数のカウントはしていないが、比較的多くの方に見ていただいたと思う。熊日に掲載されることの成果の高さも認識したが、博物館の自然系展示で「食」を扱う意外性と、とっつきやすいテーマであったことが奏功したと考えられる。



事業名　共催展　国立科学博物館・コラボミュージアム in くまもと
　　生命のれきし　―君につながるものがたり―
目　的　地球や生命の歴史に関する普及・啓発
内　容　特別展示室３
　国立科学博物館の標本を借用したコラボミュージアム事業。約３８億年前の地球最古の岩石、大型生物エディアカラ生物の化石、初期の植物化石、恐竜の全身骨格、哺乳類化石などを元に地球 46 億年の歴史をたどる展示。会期中、会場横の多目的スペースにて「アロサウルスになってみよう」（モーションキャプターを用いた恐

竜復元モデル操作体験）を毎日実施。

期　間　１２月３日（火）～１月２６日（日）

成　果　入場者数　9,593 人（開催期間博物館入場者数）

「アロサウルスになってみよう」体験者 2,030 人

備　考　熊本地震からの復興支援の一環として実施されたコラボミュージアム事業で、国立科学博物館の貴重な標本群を熊本で見ることができるまたとない機会となった。展示に関するアンケートや付箋を用いたコメントコーナーでも来館者の多くが満足していたことを見ることができた。



事業名　企画展　「旅の巨人」と呼ばれた民俗学者・

宮本常一　―熊本で見つけたモノ―

目　的　民俗学者・宮本常一の生涯とその旅を追うとともに熊本で見つけたモノとは何かを探るもの

内　容　特別展示室１・２・３

民俗学者・宮本常一の生涯とその旅を追うとともに熊本で見つけたモノとは何かを探った。宮本を旅に駆り立てた、地域における教育への思いに迫った。国指定重要有形民俗文化財「周防大島東部の生活用具」の一つとして指定された肥後犁（ひごすき）をはじめ、宮本常一の直筆原稿や調査ノート、写真などを展示した。

関連行事：①関連講演会　「宮本常一、旅の足跡」

宮本常一記念館　高木　泰伸　氏

２月８日（土）13 時 30 分～15 時

②特設コーナー設置

・くまもと森都心プラザ図書館

・熊本市立図書館

・熊本県立図書館



期　間　２月８日（土）～3月 22 日（日）

※新型コロナウイルス感染症対策のため２月 29 日以降臨時休館となったため期間は 18 日間

成　果　入場者数　3,435 人（開催期間博物館入場者数）

「関連講演会」参加者数　65 人

備　考　マスコミ各社から取材を受け、観覧者からも好評を得た。また、感染症対策などの危機管理に新たな課題を見出した。



事業名　**共催展**　「暮らしを支えた民藝展」
内　容　くまもと工芸会館
　　主催：くまもと工芸会館
　　共催：熊本国際民藝館、熊本博物館
　　全国各地の民藝品と妖怪を題材とした郷土玩具を展示
　　関連行事：講演会①　福西　大輔　「郷土玩具と妖怪」
　　８月 11 日（日）10 時～11 時半
　　講演会②　熊本国際民芸館長　井上　泰秋　氏「民藝との出会い」
　　８月 18 日（日）日 10 時～11 時 30 分
期　間　８月９日（木）～8月 25 日（木）
成　果　来館者数　９３３人
備　考　広報の徹底、及び入館者の確保、収蔵資料の活用及び他館との連携。

（3）その他展示会

事業名　「いきものフェアくまもと 2019～来て見て実感！身近な生物多様性～」
目　的　来場者に「生物多様性」について楽しみながら知っていただく
内　容　熊本市動植物園　生物多様性の日イベント
期　間　５月 11 日（土）、５月 12 日（日）
成　果　メイン会場来場者数　1,813 人

事業名　肥後しゃくやく展
目　的　栽培者はわずか数名で、一般の方が鑑賞できる機会は少ないため、熊本の伝統園芸として知ってもらい、貴重な鑑賞の機会とする。
内　容　塚原歴史民俗資料館 肥後芍薬の切り花を約 30 点展示。
期　間　５月４日（土）、5月５日（日）
成　果　来場者数 160 人
備　考　初日の報道等を見て２日目に来場された方も多く、事前広報をより充実させる必要がある。

事業名　肥後朝顔秋の展示会
目　的　肥後六花の一つである肥後朝顔を一般の方々に鑑賞していただき、伝統園芸として広く伝え、普及・啓発を図る。
内　容　熊本市動植物園
　　肥後朝顔を３日間で約 250 鉢展示。
期　間　9月6日（金）～9月8日（日）
成　果　集計無（会場内での自由観覧）
備　考　肥後芍薬同様、栽培者は減少傾向にあるため、今後も継続的に実施できるように保存会と連携を図っていく。

事業名　蔵出し考古展 2019　鏡・玉・剣
目　的　令和改元を記念し、文化振興課埋蔵文化財調査室が保管する展示機会の少ない選りすぐりの「鏡・玉・剣」関連資料を展示し、多くの方々に考古資料の魅力を伝えることを目的とする。
内　容　「弥生時代」「古墳時代」「奈良・平安時代」の各ケースに、上代町遺跡群やハノ坪遺跡などの新発見遺物や博物館蔵資料を展示した。
期　間　7月20日（土）～3月31日（火）
成　果　一般市民多数が来場観覧、講演会 43 人参加
備　考　展示機会の少ない遺物を展示することで、新鮮な展示とすることができた。今後も、文化財課と連携して展示の充実に努めたい。

（4）プラネタリウム関係

事業名　プラネタリウム投映
目　的　星や星座、惑星などについて学ぶ機会を提供するとともに、天文・宇宙に関する情報発信を行う。
内　容　①天文・宇宙に関する様々な話題を紹介する一般投映番組とともに、職員の解説による星空案内を行う（投映日の夜空等）。
②幼稚園・保育園・小中学校の団体向けに、各学年の学習内容に応じた投映・解説を行う。
③幼児・家族向けのファミリーアワー、特別投映等を実施する。
期　間　4月1日（月）～2月21日（金）
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月２２日（土）からプラネタリウム投映を休止.。
成　果　観覧者数　46,167 人
備　考　平日の団体利用以外の利用者数が少ないため、4月より開設した Twitter などを用いての広報活動を強化する。

事業名　天文講演会
目　的　天文・宇宙に関する最新の話題を研究者の生の声で伝える機会として、第一線で活躍されている研究者を招き、最新の天文学について講演いただいた。
内　容　①宇宙の不思議：ブラックホール
講　師　熊本大学大学院理学研究科　小出　眞路　氏
日　時　7月7日（日）　15 時～16 時 30 分
②似ている？似ていない？「あかつき」金星の素顔に接近中
講　師　JAXA 宇宙科学研究所　佐藤　毅彦 氏
日　時　10月26日（土）　15 時～16 時 30 分
③ホットな宇宙を探る
講　師　愛媛大学宇宙進化研究センター　粟木　久光 氏

日　時　12月22日（日）　　15時～16時30分
成　果　参加者数　①170人　②60人　③55人
備　考　子どもを含め参加された方には非常に好評の企画であるが、難しそうだからと敬遠されることが多いように感じる。そういった層にアプローチができるように、気軽に参加しようと思えるような広報を意識して行う。

事業名　字幕付きプラネタリウム
目　的　プラネタリウムの投映は映像と音声で構成されており、聴覚に障がいのある人にとっては、通常の投映は十分なものではない。そこで、聴覚に障がいのある方も、そうでない方も一緒にプラネタリウムを楽しめるよう、字幕付きの投映を行う。
内　容　①第35回字幕付きプラネタリウム
番　組　賢治の星座早見～星のものがたり
日　時　６月８日（土）　　９時45分～10時35分
12時15分～13時05分
②第36回字幕付きプラネタリウム
番　組　DARK UNIVERSE
日　時　８月12日（月・振休）　９時45分～10時35分
12時15分～13時05分
③第３７回字幕付きプラネタリウム
番　組　星屑の鉱石ラジオ-宇宙の創生インフレーション理論-
日　時　11月16日（土）　　９時45分～10時35分
12時15分～13時05分
④第３８回字幕付きプラネタリウム
番　組　地球ミュージアム
日　時　１月19日（日）　　９時45分～10時35分
12時15分～13時05分
成　果　観覧者数　①75人　②235人　③30人　④190人
備　考　聴覚障がいをもつ当事者の方に非常に好評であるため、より多くの当事者の方に足を運んでもらえるよう、熊本県聴覚障害情報提供センターと連携し情報発信を行う。

事業名　プラネタリウム特別投映
目　的　プラネタリウム活用の一環として、通常のプラネタリウム投映とは異なる１回限りの特別なプログラムを投映する。
内　容　①賢治の星のものがたり～双子の星～
プラネタリウムを用いた星空の投映などの演出と共に、宮沢賢治の代表作の一つである「双子の星」の読み聞かせを行った。
語り手　ストーリーテリング教室「ことのは」講師　志岐　有子　氏

日　時　６月９日（日）　15 時～16 時

②熟睡プラ寝たリウム

全国一斉熟睡プラ寝たリウムの開催に合わせ、気持ちよく眠っていただくためのプログラムの投映を行った。

日 時　11 月 23 日（土・祝）　16 時～16 時 50 分

③ポーリーさんのホーリーナイトプラネタリウム

熊本市内での天体観察会が大人気の星のコンシェルジュ®のポーリーさんを講師に招き、クリスマスの頃に見える星空の解説を行った。

講　師　南阿蘇ルナ天文台　ポーリーさん

日　時　12 月 1 日（日）　　13 時 30 分～14 時 20 分

成　果　観覧者数　①170 人　②140 人　③100 人

備　考　大変好評をいただいているイベントであり、今後も投映番組や話題の天文現象も考慮しながら、通常のプラネタリウム投映の枠にとらわれない企画を立案・実施し続ける。

２．博物館における教育・普及活動

（1）講座・講演会等

①　通年講座の開催

事業名　動物学講座　（全 12 回）
目　的　身近な生きものに関する室内講座と観察会
内　容　毎月第３土曜日を中心に７回の実施
※うち、３回荒天により中止、２回コロナウイルス感染拡大防止対策により中止
成　果　参加者数　112 人（年間）
備　考　準備に十分な時間がかけられず、座学でも観察会でもリニューアル前と同等なサービスが提供できなかった。次年度は回数を半分にして実施する。

事業名　植物学講座
目　的　植物の話題や野外観察などを通して植物について学び、身近な自然に対する興味・関心を高めてもらう。
内　容　５月～12 月まで月１回実施、全８回。一般成人対象。写真や標本を提示しながらの室内学習や野外での観察会など。
成　果　参加者数　146 人（年間）
備　考　座学、野外観察会を中心に行ったが、アンケート等からは標本の作製や草花工作などを実施した回が好評で要望も多かったため、次年度以降は検討したい。

事業名　地質学講座
目　的　化石・岩石・鉱物など、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発
内　容　隔月での通年講座（屋内講座）
（１）熊本の地質概要　オリエンテーション
日時　４月２１日（日）　１４時～１５時 30
（２）岩石とその利用
日時　６月１６日（日）　１４時～１５時 30 分
（３）化石（石の持ち寄り会）
日時　８月１８日（日）　１４時～１５時 30 分
（４）火山　大地の息吹
（５）鉱物　結晶の美
日時　１２月１５日（日）　１４時～１５時 30 分
（６）地盤災害と大地の恵み　１年のまとめ
日時　２月１６日（日）　１４時～１５時 30 分
成　果　参加者数　113 人（年間）：（申込受講生　３８人）
備　考　化石・鉱物採集が趣味の受講生が多く第３回で自慢の標本を持ち寄ってもらった

回は特に盛り上がった。小学生や中学生から高齢の方まで、石を通した異年齢の交流の場でもあった。毎回実施したアンケートに基づき、受講生の知りたい内容におおむね応えられたように思う。

事業名　民俗学講座
目　的　年中行事、伝説、民俗芸能等を学習する
内　容　５月～2 月までの第二火曜日に講堂における座学講座（10 回）
成　果　参加者数　３５５人（年間）
備　考　内部調整、参加者数の制限、民俗学の啓蒙

事業名　考古学専門講座
目　的　考古学のバイブル、濱田耕作『通論考古学』を読み、原点に立ち返って考古学を学びなおしながら、現地踏査も取り入れた通年講座（８回）
内　容　５月 29 日～1 月 16 日（対象　一般成人）
※10 回予定のうち２月３月はコロナウイルス感染拡大防止対策により中止
成　果　参加者数　58 人
備　考　座学だけなら参加者は増やしてもよいが、現地踏査では 15 人が限度である。今後は考古学の面白さや楽しさを伝えていきたい。

②野外活動・研究関係
事業名　夏休み化石観察会
内　容　化石や熊本の大地に関する普及・啓発として、小学生以上の子どもたちや保護者を対象に、大型バスで天草の化石産地に行き、露頭の観察や転石の採集などを行った。また、道中では車窓から見える地形や、その成因となる地質を紹介した。参加者のうち希望者には翌日、博物館内で化石のクリーニング体験を実施した。
期　間　７月２７日（土）９時～17 時
成　果　参加者数　47 人　（うちクリーニング体験参加者　20 人）
備　考　ほとんどが野外で化石を見つけたことのない参加者であったが、石との見分け方や、現地で見つかる化石の特徴を伝え、全員が自分で化石を見つけることができるようになった。50 人近い参加者に対し、化石がわかる人員が一人だけで、同定待ちの長蛇の列ができてしまったため、次回からは化石採集の経験のある人員を確保して臨みたい。

事業名　春の化石観察会
内　容　化石や熊本の大地に関する普及・啓発として、小学生以上の子どもたちや保護者を対象に、大型バスで天草の化石産地に行き、露頭の観察や転石の採集などを行う予定だった。

期　間　３月２２日（日）※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。
事業名　考古学現地見学
内　容　現地見学会
期　間　１０月３０日（水）柿原城跡、１２月３日（火）古町遺跡、
　　１月１６日（木）立田山南麓古墳など
成　果　参加者数　１７人
備　考　参加人数は１０人程度までがよい。

事業名　考古学資料調査
内　容　館蔵の下立田古墳出土土器と県蔵の北岡横穴群出土土器の比較検討
　　（場所　熊本県文化財資料室）
期　間　６月２７日（木）
成　果　参加者数　３人
備　考　他遺跡との比較で見えてくるものがある。2020 年度の展示など生かしていく。

③その他の講座、講演会等
事業名　親子でチャレンジ　北部公民館西里分館
内　容　水棲生物の生態と飼育についての学習
期　間　８月１２日（月）
成　果　参加者数　３３人
備　考　ここ数年毎年依頼されて講師として参加している。自由研究のヒントを提供することに重きを置いており、特に保護者の反応が良い。

事業名　水前寺江津湖公園サービスセンターわくわくえづっ子塾「江津湖の昆虫探検隊」
内　容　江津湖の生きもの観察会
期　間　９月７日（土）
成　果　参加者数　３０人
備　考　参加者から「定期的に開催してほしい」との声がいくつか聞かれ、概ね成功と言ってよい。

事業名　坪井川遊水地観察会
内　容　無駄な空間と思われがちな遊水地の自然の豊かさを周辺住民に認識していただく。
期　間　５月２６日（日）
成　果　集計無（会場内での自由観覧）
備　考　遊水池を娯楽利用の目的で開発するか否かの判断材料の一つとして企画された

勉強会。講師として参加した動物と植物の学芸員は、「生態系」の観点からの遊水池の有用性についてのみ解説し、感情的な意見は極力排除するよう心がけた。今後も似たような案件に対し意見を求められることもあると思うが、自らの立ち位置をブレさせることなく対応したい。

事業名　自由研究相談会
内　容　自由研究のテーマ設定や進め方についての相談とまとめ方の相談対応
期　間　①7月２０日（土）、②8月１７日（土）
成　果　参加者数　①6 人、②6 人
備　考　リニューアル前は特に宣伝していなくても参加者が集まっていたが、長らく休止していたためか認知度が低いようで、参加者が少なかった。今年度は感染症対策のためこれまでと同様には実施できないが、できる限りの宣伝をしたい。

事業名　七草観察会　※江津湖より講師派遣依頼
内　容　江津湖公園広木地区での春の七草観察会
期　間　１月１８日（土）
成　果　参加者数　30 人
備　考　依頼を受けて観察会講師として参加した。参加者の中心は未就学児とその保護者であったため、子ども向けの解説資料を配布して実施した。

事業名　講演会「きみの耳には恐竜がいて？！だから、きみは哺乳類」
内　容　生物の進化に関する普及・啓発として、国立科学博物館とのコラボミュージアムの関連講演会。化石として残る骨格の形質からわかる哺乳類と爬虫類、恐竜の進化の歴史を、げっ歯類化石の専門家である講師の解説で、小学生にもわかりやすく講演していただいた。
講　師　国立科学博物館　木村　由莉 氏
期　間　１月１１日（土）15 時～16 時 30 分
成　果　参加者数　108 人
備　考　かなり専門的な内容であったが、講師の配慮により小学生でも楽しめる内容の講演会であった。質疑応答も一人一人しっかり時間をかけて対応していただき、世界の古生物学研究の第一線で活躍している研究者との交流は、参加した子どもたちにとって貴重な経験となったように思われる。

事業名　地球電磁気学・地球惑星圏学会アウトリーチイベント
「科学実験で宇宙・惑星・地球の不思議を体験しよう！」（共催イベント）
内　容　子どもの理科離れを解消するため、子どもたちに実物に触れることを通じて、地球や宇宙さらには地球電磁気学の面白さや楽しさを体験してもらうもので、最先端の宇宙・地球惑星科学研究を身体で感じてもらえるよう、学会に所属する

様々な分野の「はかせ」達が全国から一堂に会し、ラジオ工作、ピンポン玉惑星工作、実物展示を行った。

期　間　10月27日（日）

成　果　参加者数　534人

備　考　事前予約制のイベントは予約開始1時間で満席となり、大盛況のイベントであった。熊本博物館に直接的な展示・学芸分野はない「電磁気学」について、さまざまな専門家から直接レクチャーを受けられる機会となり、当館の教育活動を補完する意味でも有意義であった。

事業名　クリスマスツリーをアンモナイトでかざろう

内　容　化石や生物進化に関する普及・啓発として、お湯で軟化する樹脂を使って、アンモナイト型のクリスマスツリーオーナメントを作る体験。樹脂を冷ます待ち時間には、クリスマスにちなんだ古生物クイズを行った。

期　間　12月22日（土）①10時～、②13時～、③14時～

成　果　参加者数　①10人　②13人　③5人　計28人

備　考　より幅広い層にお化石や古生物に興味をもってもらうべく、「クリスマス」をテーマにイベントを行った。参加者は化石好きの子どもだけでなく、さまざまな興味を持つ子どもたちが参加してくれていた。毎年クリスマスツリーを準備する際にここで作製したオーナメントを見てこの経験を思い出してもらえれば、なお良い。

事業名　ぬりえで復元！ステゴサウルス

内　容　化石や生物進化に関する普及・啓発として、国立科学博物館とのコラボミュージアムの関連イベント。専用の用紙にぬり絵をすると、その絵の恐竜が画面中で立体になって動き、一緒に記念撮影できるAR体験。ぬり絵の前にステゴサウルスの骨格復元の変遷史を紹介し、参加者に自分なりの恐竜の色彩推定を促した。

期　間　12月28日（土）①10時～、②12時～、③14時～

成　果　参加者数　①17人　②22人　③36人　　計75人

備　考　単に復元画を描くだけでなく、ARで立体化した完成形を想定して作業するため、それぞれの持つ感性がとても活きるヴァーチャル体験であった。クリスマスにもらった恐竜グッズを持参する参加者もあり、冬休みにぴったりの体験イベントであった。

事業名　ホームページコンテンツ「博物館流　自然観察・科学工作のススメ」

内　容　人混みを避けながら家庭で手軽に実施できる自然観察•科学工作の方法をホームページで発信し、新型コロナウイルス感染流行によるイベント自粛・休校・休館期間中の学習意欲を支援するもの。博物館職員がもつ観察・体験プログラムのうち、直接のレクチャーなしに個人が家の中や庭先などで楽しめる自然観察•科学工作の

資料や型紙、ぬり絵などをインターネット配信する。
（内容の例）
・【しゃちべえのいない・いない・ばあっ！】
・【”ちりめんじゃこ”で海の中を覗いてみよう】
・【魚の耳石を取り出してみよう】
・【頭骨ふくふくパズル】
・【春の草花でビンゴゲーム】
・【飛ばして遊ぼう「紙のアルソミトラ」】
・【アーケオプテリクスふくげん　ぬりえレリーフ】

期　間　３月２日（月）より公開開始・随時更新中

備　考　博物館のコロナ対応としてはかなり早い段階から実現できたこともあり、テレビ局各社（全国ネット含む）・ラジオ・新聞など、マスコミの反応も大きかった。また、単館では発信できるコンテンツの数や分野に限度があったが、全国の博物館の取り組みを情報共有する「おうちミュージアム」（北海道博物館主催）に参加したことにより、小中学校の休校や非常事態宣言発令後の自粛で多くの人々が学習意欲の行き場を失っていた時期にも、生涯学習を推奨する社会教育施設としての役割をある程度果たすことができたように思える。一方で今回これらの活動はほとんど一般的なホームページ機能のみで実施したが、今後 VR や 3D スキャンなどのデジタル技術を導入することにより、新型コロナ対応に限らず、熊本博物館ならではのデジタルコンテンツを生み出すことができるようになるだろう。

事業名　コズミックカレッジ

内　容　JAXA 宇宙教育センター・コズミックカレッジ運営支援事務局の提供するコズミックカレッジプログラム（教育プログラム）を用いて天文教室を行う。
①宇宙飛行士に挑戦
日時　８月 24 日（土）　14 時 30 分～15 時 30 分
②惑星モビールを作ろう
日時　２月２日（日）　14 時 30 分～16 時 30 分

成　果　参加者数　①30 人　②30 人

備　考　①はホワイトパズルやミラーボックスなどを用いて宇宙飛行士に必要なスキルを楽しく学んだ。②は惑星モビールを作りながら、太陽系の惑星やそれらを調べた探査機について楽しく学んだ。非常に人気のある企画であるため、今後も定期的に開催するよう努める。

事業名　人工衛星つばめ宇宙教室

内　容　宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）の人工衛星「つばめ」から九州旅客鉄道株式会社の熊本総合車両所に留置されている九州新幹線「つばめ」を撮影するコラボ企画の一環として、人工衛星つばめについての解説、撮影した画像の公開を行

うもので、人工衛星つばめについての解説、撮影した画像の公開
講師　JAXA 宇宙科学研究所　川崎　春夫 氏
期　間　８月 31 日（土）14 時 45 分～15 時 25 分
成　果　参加者数　160 人
備　考　告知期間が短かったものの、参加者も非常に多く好評をいただいたイベントであった。今後もこのような宇宙・天文ファン以外の層にもアプローチできるイベントを実施したい。

事業名　蔵出し考古展 2019　鏡・玉・剣　関連講演会「熊本市の青銅器文化」
内　容　講師　福岡大学教授　武末　純一　氏による講演会
期　間　８月 18 日（日）
成　果　参加者数　４３人
備　考　講座室が狭く、40 人程度で満杯になった。今後はコロナ関連があるので、多数の参加が見込める講演会ではプラネタリウムや外部会場も検討する必要がある。

事業名〈夏休み自由研究相談会〉大江遺跡と土器と発掘調査の進め方
内　容　相談者が撮影した大江遺跡発掘調査現場の定点観測写真をもとに、自由研究のまとめ方を話した。
期　間　７月 20 日（土）
成　果　参加者数　１家族
備　考　親が理解することで、子どもにも伝わる。より分かりやすく、伝えるようにしたい。

事業名　〈夏休み自由研究相談会〉縄文時代の轟式土器について
内　容　相談者が天草で採集した轟式土器をもとに、自由研究のまとめ方を話した。
期　間　８月 14 日（水）
成　果　参加者数　１家族
備　考　親が理解することで、子どもにも伝わる。より分かりやすく、伝えるようにしたい。

〈５月大型連休の催し〉
事業名　G・W！10 連休は熊博へ
目　的　学芸班職員の専門性を活かし、GW 期間中に多様なイベントを開催することで博物館活動の多面的な魅力を伝える。
期間・概要　４月 27 日～５月６日までの 10 日間に以下のイベントを行った。火起し・石臼ひき体験（きなこ作り）、漢詩講座、ミョウバンの結晶作り草木染め体験、館周辺の考古学、宮沢賢治の星座早見盤作り、生きもの観察会カラフルアン

モナイト作り、舟屋形の天井画解説、刀のい・ろ・は風とゴムのはたらきを使った科学工作、鉱物パンニング体験展示会関連のリレートーク　他

実施内容

〇火起こし・石臼体験！きな粉を作ろう

内　容　火打石で火を起こし、炒った大豆できな粉を作る
期　間　４月27日（土）、５月１日（水・祝）
成　果　参加者数　104人

〇漢詩の世界へようこそ

内　容　本物の資料をもとに、漢詩の基礎を学ぶ
期　間　４月27日（土）
成　果　参加者数　18人

〇ミョウバンの結晶を作ろう

内　容　小さなミョウバンの結晶を大きく育てる。
期　間　４月28日（日）
成　果　参加者数　96人

〇草木染め体験

内　容　身近な材料で自分だけのオリジナルハンカチを作成
期　間　４月２９日（月・祝）
成　果　参加者数　２０人

〇みんなで考古学！

内　容　実際に土器や石器に触れながら、縄文時代に思いをはせる。
期　間　４月30日（火・休日）
成　果　参加者数　15人

〇宮沢賢治の星座早見を作ろう

内　容　プラネタリウムの番組内に登場する星座早見表を作って星座を探す。
期　間　５月１日（水・祝）
成　果　参加者数　70人

〇生きもの観察会

内　容　博物館のまわりを歩いて、いろいろな生きものを観察する。
期　間　５月２日（木・休）
成　果　参加者数　５５人

〇カラフルアンモナイトを作ろう

内　容　化石や生物進化に関する普及・啓発として、お湯で軟化する樹脂をアンモナイトの型に押し当て、カラフルなアンモナイトを作る体験。樹脂を冷ます待ち時間には、アンモナイトに関するプチ講座を行った。

期　間　５月３日（金・祝）

成　果　参加者数　121 人

〇舟屋形の天井画

内　容　（公財）永青文庫所蔵細川家舟屋形の修理についての紹介

期　間　５月３日（金）

成　果　参加者数　10 人

〇刀のいろは

内　容　刀剣鑑賞のポイントや基本的な取り扱いについて学ぶ。

期　間　５月４日（土）

成　果　参加者数　18 人

〇鉱物パンニング体験

内　容　鉱物やその採集法に関する普及・啓発として、パンニング盆（砂金探し用のお盆）を使い砂金やザクロ石などの重鉱物を砂の中から見つけ出す模擬体験

期　間　５月5日（日・祝）

成　果　参加者数　168 人

〇科学工作を楽しもう

内　容　風船ＣＤホバークラフトや紙 back を作って動かしてみる。

期　間　５月５日（日・祝）

成　果　参加者数　128 人

〇博物館周辺の考古学

内　容　発掘調査成果をもとに、二の丸や三の丸を巡った。

期　間　５月６日（月・振替休日）

成　果　参加者数　５人

備　考　総合博物館の利点を生かしたイベントで、幅広い世代の来館者向けに多様な活動を提供する機会となった。次年度以降も学芸班職員の専門性を反映させ、より親しみやすい、興味深いイベントになるよう努めていく。

※補足事項

・生きもの観察会

博物館周辺のごく狭い範囲でいろいろな生き物が見られることを実感してもらえた。自由に自然を楽しんでいただくことを基本としているが、子どもたちばかりが周囲に集まり、話を聞きたい人たちすべてには声が届かなかったような気がしている。今回の募集人員は 40 名であったが、結局集まっていただいた方ほぼ全員を受け入れた。今後同様なことを実施する際には、参加者数の制限も考えたい。

・カラフルアンモナイトを作ろう

ゴールデンウイークで参加者が非常に多く、アンモナイトや化石について興味をもってもらうよいきっかけとなった。一方で、このような繁忙期にイベントを実施するための人数体制に不安を感じる場面もあった。

・鉱物パンニング体験

ゴールデンウイークで参加者が非常に多く、鉱物の特徴やそれを活かした採集方法について興味を持ってもらえた。さまざまな場所で実施してきた体験で、熊本博物館内では今回初めての実施であったが、開始直後に参加者が殺到する場面もあったため、今後は参加手順を再検討する必要がある。

〈2 月くまはく誕生祭の催し〉

事業名　くまはく誕生月間イベント

目　的　1962 年２月４日に開館した「熊本博物館の誕生月」にちなみ、２月の土・日・祝日に各種イベントを開催することで当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝える。

期間・概要　令和２年（2020 年）２月の土・日・祝日に、以下のイベントを実施または計画した（実施は２月 21 日まで。22 日からイベント中止、29 日より臨時休館に入る）。

実施内容

〇静電気グッズ作り

内　容　静電気コップや電気くらげなどを作り、ビリビリ・フワフワ体験

期　間　２月１日（土）

成　果　参加者数　68 人

〇コズミックカレッジ

内　容　モビールを作りながら、楽しく太陽や太陽系の惑星について学ぶ。

期　間　２月２日（日）

成　果　参加者数　30 人

〇野鳥観察会
内　容　博物館周辺で野鳥の観察
期　間　２月９日（日）
成　果　参加者数　31 人

〇熊本城周辺歴史ウォーク
内　容　熊本城二の丸・三の丸地域を中心に、歴史スポットを歩く。
期　間　２月９日（日）
成　果　参加者数　25 人

〇紫キャベツ紙作り
内　容　紫キャベツの色素を染み込ませた画用紙で不思議なお絵かきや、紫キャベツ紙の作成
期　間　2月 11 日（火・祝）
成　果　参加者数　125 人

〇ゴムとおもりを使った科学工作
内　容　ねじれたゴムが元に戻ろうとする性質（弾性）について学ぶことができる簡単な科学工作
期　間　２月 15 日（土）
成　果　参加者数　65 人

〇植物の種子のワークショップ
内　容　いろいろなタネを観察して、飛ぶタネの紙模型を作る。
期　間　２月 16 日（日）
成　果　参加者数　18 人

〇西南戦争遺跡巡り　参加者数　14 人
内　容　熊本城が炎上した日に周辺を歩く。
期　間　２月 19 日（水）
成　果　参加者数　14 人

※以下のイベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
（美術のイチオシ資料解説、顕微鏡観察、銅鏡レプリカ）
備　考　新型コロナウイルス感染拡大防止のため、月間途中での臨時休館となったが、来館者が減少傾向となる冬季にイベントを開催したことで、例年以上の集客につながった（イベントに付随したサメの歯化石プレゼントも成果があった）。主な備考は、５月のイベントにおける「備　考」と同様。

（2）学校教育支援事業

事業名　ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）

目　的　博物館が有する価値ある収蔵資料及び学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。

期　間　年間を通して要請に応じて実施。

内　容　学芸員・研究員を小学校「社会科・理科」の授業を中心にゲストティーチャーとして派遣する（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）。担任の指導を補佐しながら資料や専門知識を駆使し、学習内容の充実を図るとともに教育成果を高める（可能な範囲で派遣中）。

成　果　当面の臨時休館に入る前日（２月２１日）時点で、延べ９校（画図小、日吉東小、西原小、山ノ内小、山東小、西原小、一新小、田迎西小、長嶺小）において派遣授業２２時間を実施。子どもたちの意欲的な学習活動を支援し、確かな理解を促した（前年度実績は延べ５校：15 時間）。

備　考　利用校・実施時間数ともに前年度を上回った。次年度、小学校においては新規の採択教教科書を用いた学習がなされるため、年度前半には学校教育支援事業の「お出かけ事業：派遣授業プログラム集 2016（訳 90 題材）」の更新作業と再配布を行い、改めて事業の普及と内容の啓発に努める。

事業名　学校 PTA 活動支援/社会教育施設開催講座

内　容　学校 PTA 活動社会教育施設等での科学教室開催内容自然科学への興味・関心を高めることを目的とした学年・学級 PTA 活動や公民館講座などに講師として参加し、内容の充実及び活動目的の達成のための支援を行うもの。子ども科学・ものづくり教室で行っている科学実験・科学工作の中からいくつかの題材を選んで提供し、ともに活動を楽しむ。

- 城西校区９町内子ども会活動（6月2日：35 人）
- ミュージアム・キッズ in 古墳館（6月 23 日：1042 人）
- 元気保育園活動（7 月 12 日：23 人）
- 教員のための博物館の日（8 月 8 日：15 人）
- 山東小学校３年 PTA 活動（10 月 19 日：66 人）
- 子ども文化会館・科学ランド（11 月 10 日：208 人）
- 南部公民館講座（11 月 16 日：20 人）
- 託麻公民館講座（11 月 30 日：42 人）
- くまもとキッズ・ミュージアム in 合志（2020 年 1 月 19 日：338 人）他

期　間　4月～2 月

成　果　参加者数　1,789 人

備　考　館外にて、児童・生徒・保護者・PTA 役員の方々に「科学工作等」の楽しさを伝える場となっている。再要請を願う声も多く、好評である。館内での業務を優先するため、対応できる枠（派遣回数）に限りがある。教室運営のノウハウや実

施内容について事前協議の時間をもち、主催者側が主体となって開催できるような工夫・支援をしていきたい。

事業名　館内学習支援活動（お迎え事業）

目　的　「館内学習プログラム集」を活用し、リニューアル後の学校団体利用時におけるオリエンテーション等において、館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで、館内見学（学習）に関する興味・関心を高める。

期　間　年間を通して実施。

内　容　新設された講堂及び実験・工作室を活用し、担当の学芸員が所管する展示物の魅力や価値を補足資料等も交えながら紹介することにより、学習後の館内見学に対する期待感を高めるとともに、見学の視点を与える。学校団体予約時に館内学習プログラム集の中から１～２題材（１題材：１５分間程度）を選んでもらい、要請に応じて実施する。

本年度は、新規事業である「熊本博物館・スクールシャトルバス事業」ともリンクさせ、当館への招待校（12 校）に対しても館内学習を行った。

成　果　豊田小４年（43 人：植物プログラム）、田原小４年（16 人：植物）、櫻井小３年（48 人：動物）、杉上小３年（52 人：民俗）、菊池市立花房小３・４年（26 人：動物）、御船町立高木小３年（24 人：民俗）、美里町立励徳小３･４年（16 人：植物）、田底小３年（20 人：民俗）、山東小・山本小３･４年（99 人：理工・民俗）、植木小３年（71 人：民俗）、富合小３年（108 人：民俗・動物）、菱形小３年（34 人：民俗）、吉松小３年（33 人：民俗）、大江小３年（114 人：民俗・理工）、熊大付属特別支援学校高等部（30 人：動物）を対象に館内学習を実施した。

全 16 校に対して延べ 24 プログラムを実施し、展示資料に関する見方や考え方の一端を伝えることができた。

備　考　館内学習についてはリニューアルオープン後に取組を開始したため、まだ事業内容や教育的成果が周知されているとは言えない部分がある。校長・園長会や教職員研修での内容紹介、学習プログラム例の動画配信などにも取り組みながら活用促進を図っていく。

事業名　熊本博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）

目　的　小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（３年生または４年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。

期間・内容　年度期間中において、事業該当校（12 校）の希望日に実施。上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、地理的に遠方の学校と当館を結ぶスクールシャトルバス（大型バス：延べ 18 台）を借り上げて運行。館内スケジュールの基本的な流れはプラネタリウム学習投映、館

内学習プログラム体験（1～2 本）、館内展示物見学を盛り込み、館内で２時間半程度を過ごしてもらった。

成　果　事業対象校の全 12 校の引率者（33 人）と参加児童（589 人）に対してアンケート調査を行った結果、プラネタリウム視聴・館内学習・展示物見学、全てにおいて大変好評だった。

備　考　博物館の多面的な魅力を知ってもらうための有効な事業となりえたが、当日の滞在時間が短く（学校給食前に帰校する必要があったため）、館内学習や展示物見学が十分にできない状況も見受けられた。来年度は、館外での昼食時間を含めた滞在時間を４時間程度に拡大し、館内でゆっくり過ごすことができるよう改善を図る。

事業名　子ども科学・ものづくり教室

内　容　小中学生を主な対象として「科学実験や科学工作」などの直接体験の場を設け、身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術（歴史や文化に関する内容も一部含む）について学ぶ機会を提供するもので、色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした内容のほか、葉脈標本作り、アンモナイトのレプリカ作り、巴形銅器のレプリカ作りなど、植物、地質、考古分野に関する内容も取り入れ、内容の充実を図った。また、NPO 団体（日本アマチュア無線連盟熊本県支部）や熊本高等専門学校との共催イベントも再開した。

※子どもの心に不思議の種（ふしぎだね）蒔きをする。

【定員制教室の例】コイルモーター作り、紙パックカメラ作り　他

【自由参加・ショー形式の例】静電気実験ショー、液体窒素ショー　他

期　間　４月～２月

成　果　参加者数　2,067 人

備　考　共催事業を再開したことで内容のバリエーションが増え、参加者の興味・関心をより高めることができた。年度中の開催数は２８回（昨年度は２６回開催で参加総数は１４３２人。内、約６割が子ども）。参加者が年々増加しており、年齢差・個人差に応じた実技面での指導や運営スタッフの補充など、人材面での協力体制強化が求められる。今後も、大学や高専、民間団体とも連携した教室を開催し、新規及びリピーターの増加を目指す。

事業名　小学校理科実験事故防止講習会（市教委指導課主催）

目　的　理科実験中に起こりうる実験事故の防止対策につながる内容の講習会を行い、安全かつ適切な実験方法等について指導・助言を行うと共に、実技指導により教師自身の技能向上に寄与する。

期日・内容　５月８日、10 日、15 日の３日間にわたって実施。近年起こっている実験事故の事例紹介と対策講話、火気・薬品・ガラス器具等の取り扱い方に関する

実演指導を行う。主に小学校の理科担当者（理科主任）を対象に、アルコールランプの操作やガラス器具の加熱方法、気体を発生させる実験過程での留意点等について実技を交えてポイントを伝える。

成　果　市内全小学校の理科担当者（90 人余り）

備　考　毎回１時間半程度の限られた時間内に実験実技と事故防止に関する指導を行うため、扱う内容も限定的である。この講習会をきっかけとして博物館及び担当職員を知っていただき、必要なときに来館・派遣して相談にのったり実技支援を行ったりすることができるような双方向性のある関係を築いていきたい。

事業名　教職員向け研修講座～館内学習プログラム解説編～

目　的　学校教育支援事業（お迎え事業）で活用する「館内学習プログラム集（全 50 題材）について、その冊子の中で紹介している館内展示物等の価値や魅力を各担当学芸員が教師向けに直接伝える。

期日・内容　７月 29 日（月）、８月 19 日（月）の２日間実施。内容は、講堂及び実験・工作室で、作成したプログラムの概要を座学で伝え、その後、展示室に移動し、実物を見学しながら補足説明を加えたり質問に応じたりした。

成　果　当館で準備している学習プログラム及び活用資料・展示資料の魅力や価値（の一端）を伝えたことで、博物館を身近に感じてもらえたように思う。また、学校団体見学の際には是非、本プログラムを活用してみたいという感想が聞かれた。

備　考　館内学習プログラムに関する講習会は初開催で、周知も十分ではなかったためか参加者は延べ 20 人程度にとどまった。学校向けの周知だけでなく、教科等部会（社会科・理科部会等）を介した呼びかけ等も行っていく。

事業名　総合的な学習の時間

期日・内容 11 月　７日（木）　日吉東小学校　３年生　80 人

２月２１日（金）　長嶺小学校　　６年生　186 人

成　果　事前に学校から児童たちの知りたいことが知らされており、目的も明確であったため、先生・児童ともに満足していただけた。

備　考　担当教諭の望まれた内容が、イノシシによる諸々の被害の話と「学芸員」の話の２本立てであった。職業の話に十分な時間が割けず、学芸員の仕事内容については理解してもらえたと思うが、その魅力について伝えられたかどうか自信がない。話の組み立て次第ではあると思うが、話題の絞り込みを提案してもよかったかと思う。

事業名　生活科授業への協力

期日・内容　９月１２日（木）　画図小学校　　２年生　15 人

成　果　地域学習の一環で、サポートの保護者も数人付けてくれており、こちらは引率と解説等に集中することができ、児童からは満足の声を聞くことができた。

備　考　屋外での実施で、児童の興味が次から次へと移行したため、対応に忙しかった。ある程度区切りの良いところで理解度の確認が必要であったかもしれない。

（３）博物館実習等

事業名　高校生対象：インターンシップ職場実習

目　的　社会教育施設における職場体験を通して業務内容の一端にふれ、職業観・勤労観を育むと共に、体験者自身が進路選択をする上での一助とする。

内　容　学芸班職員の通常業務、総務企画班の通常業務に関して、イベントの準備、資料の実測、資料作成等、体験可能な範囲で業務体験をする。

成　果　湧心館高等学校（２人）、第一高等学校（１人）、大津高等学校（２人）、熊本聾学校（１人）、熊本大学附属特別支援学校（１人）

備　考　総合博物館ならではの多種多様な業務、来館者対応業務等の一端に触れることができ、生徒にとっては貴重な体験の場となっているが、わずか数日間のことであり、評価・評定が難しい。受け入れ側（担当者）評価の是非について、学校側との協議が必要である（その旨、提案していく）。

事業名　教職員対象：社会体験研修

目　的　教職員研修の一環として行われている異業種体験研修に協力する。

内　容　学芸班職員の通常業務、総務企画班の通常業務に関して、来館者対応、イベントの準備、資料整理、資料作成等、体験可能な範囲で異業種体験を行い、自分自身の教職業務について見つめ直す機会を提供する。

成　果　盲学校（１人）、湧心館高校（１人）

備　考　今回は研修者（二人）の受け入れ時期が同じだったため、同一メニューでの業務体験が可能であったが、時期がずれたり博物館の繁忙期と重なったりした場合には、当館職員が十分に対応できなかったり、希望する業務体験を提供できなかったりすることも考えられる。研修希望者には、時間的に余裕をもって（同時期に）受け入れに関する相談をするよう働きかけていきたい。

事業名　博物館実習

目　的　博物館実習ガイドラインに基づき、当館の実情をふまえ、実習生を公募の上、実習のカリキュラムを組み行った。

内容・実習期間　８月27日（火）～９月１日（日）　実習生：14人

受け入れ大学：熊本大学・鶴見大学・福岡大学
立命館大学・愛知学院大学・京都造形大学

備　考　今年度は多くの学校から実習生を受け入れることができた。また、人数も実技の関係上適切な人数だった。閉館前に比べて実習時間が短くなったことや実習生の希望に合わせたきめ細やかな指導ができなかったことが今後の課題となった。

3．資料収集

（1）収蔵資料

資料点数　140,228 点（2020.3.31 現在）

	H27	H28	H29	H30	R1
地質	20097	20097	20112	20,172	20,182
動物	58161	58161	58321	58,930	60,792
植物	16721	16721	16742	16,766	16,865
理工	137	137	137	135	135
考古	10217	10217	10217	10,224	10,224
歴史美工	15049	15049	15175	18,138	18,469
民俗	13135	13135	13319	13,558	13,561
総計	133,517	133,517	134,023	137,923	140,228

（※上記は登録済みの点数であり、未整理・未登録の資料は含まない。）

（2）寄贈

日　付	資　料　名	点　数
5月8日	刀剣類（佐々家伝来）	3
5月13日	早川家・伊東家・志賀家関連資料	105
	（古文書・刀剣類）	
5月15日	有田焼瑠璃金絵奈良茶碗ほか（伊豆家伝来）	160
6月19日	もろぶた・画報	2
7月30日	熊本県産岩石	57
8月18日	フナクイムシ・ウニ・サンゴの化石	3
9月20日	松田家文書	(件数)20
9月20日	蟹江家関連資料（古文書・刀剣類）	8
11月8日	さく葉標本	319
11月12日	肥後犁	1
11月13日	記念杯・ベルトのバックル	3
2月18日	外国産・国内産昆虫標本	20,508
3月13日	ミナミハンドウイルカ頭骨	1

4. 保存修理事業関係

事業名　熊本博物館所蔵古文書修復業務委託
目　的　熊本博物館所蔵資料の損傷部分を修復し、装丁を新調する。
内　容　密偵口供書（写）
　　水墨画（鍾馗）伊時家文書
　　池部長十郎門弟附（加賀山家文書）
　　弘化甲辰元暦（津川家文書）
　期　間　９月19日（木）～３月31日（火）
成　果　損傷の激しい所蔵資料を修復し、今後の展示活用に備えている。
備　考　今後も資料状態、活用予定などを鑑みて計画的かつ成果的な資料修復を進めていく必要がある。

事業名　熊本博物館所蔵古文書修復業務委託
目　的　熊本博物館所蔵資料の損傷部分を修復し、装丁を新調する。
内　容　密偵口供書（写）
　　水墨画（鍾馗）伊時家文書
　　池部長十郎門弟附（加賀山家文書）
　　弘化甲辰元暦（津川家文書）
期　間　９月19日（木）～３月31日（火）
成　果　損傷の激しい所蔵資料を修復し、今後の展示活用に備えている。


密偵口供書（写）

5. 令和元年度入館者状況

（単位：人）

施設		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
熊本博物館		5,855	7,597	7,289	10,277	21,032	4,138	8,358	6,582	4,544	5,790	5,478	0	**86,940**
	一般	3,483	4,602	3,630	5,275	10,827	2,405	4,142	3,949	2,586	3,147	2,544	0	46,590
	高校生・大学生	242	318	207	293	514	183	522	120	379	138	136	0	3,052
	小・中学生	1,563	1,938	1,165	2,760	6,412	982	2,827	1,983	978	1,553	2,133	0	24,294
	就学前児・乳幼児	567	739	2,287	1,949	3,279	568	867	530	601	952	665	0	13,004
（プラネタリウム）		3,820	4,417	5,200	6,072	9,189	2,282	3,679	2,703	2,497	3,643	2,666	0	46,168
	一般	1,998	2,363	2,081	2,732	4,376	1,222	1,397	1,301	1,159	1,661	746	0	21,036
	高校生・大学生	158	203	97	164	324	120	419	64	298	93	55	0	1,995
	小・中学生	1,555	1,483	1,193	2,268	4,168	741	1,628	1,013	883	1,640	1,609	0	18,181
	就学前児・乳幼児	109	368	1,829	908	321	199	235	325	157	249	256	0	4,956

※休館日における学習投映を含む
※2月29日より新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

6. 塚原歴史民俗資料館関係

（1）展示活動（企画展等）

事業名　企画展「平成３１年度熊本市遺跡発掘速報展」（共催：熊本市文化振興課主催）

目　的　平成３０年から平成３１年度に発掘調査が行われた遺跡や報告書作成・整理作業が行われた遺跡について、出土遺物や写真パネルによる展示、解説を行い、発掘成果を広く市民に還元し、熊本市の歴史への理解を深めてもらうことを目的とする。

内　容　熊本市内から発掘された縄文時代から近代に及ぶ発掘資料１００点余りと合わせて本館収蔵資料６０点余りを展示した。また１月１２日（日）及び２月２日（日）に展示会関連の特別講演を実施した。

期　間　１２月２０日（金）から２月２４日（月）

成　果　期間中入館者　９８９人（前年度比１．８倍）

備　考　今回のメイン展示となった上代遺跡から出土の埋葬馬の全身骨格は、全国でも３例という希少性から、複数のマスコミにたびたび取り上げられたことから、入館者増につながった。 なお県外からの入館者もあり、本館を周知するいい機会となった。

主催者との連絡不足からスムーズに来館者対応ができない点があったことから、連絡を密にする必要がある。

事業名　企画展　「平成３１年度熊本市遺跡発掘速報展」関連講演

目　的　展示されている遺跡についてより詳しい内容や発掘調査で得られた史実をもとに講義し、より熊本市の歴史への理解や関心を持ってもらうことを目的とする.

内　容　１月１２日（日）開催の講演会では、「熊本城下焼亡をさぐる」と題して、熊本市文化振興課の職員に講演いただいた。西南戦争で焼失した町屋跡の発掘調査で見つかった陶磁器から、当時の人々の暮らしぶりを想像させるもの。２月２日（日）開催の講演会では、「上代遺跡群出土の馬」と題して、発掘を担当した職員に講演いただいた。馬の出土状況や古墳時代における全国での馬の出土状況、また上代遺跡の性格等について講演いただいた。

成　果　参加者数　５５人（１月１２日開催分）６０人（２月２日開催分）

備　考　熊本市の最新情報が聞ける数少ない機会であり、他県からの参加者もあった。県外からの参加者も多かったことから、ホームページ等を活用を工夫したい。

（2）資料館における教育・普及活動（講座・教室等）

事業名　考古学講座

目　的　講義を通して学ぶ楽しさや考古学への興味を持ってもらい文化財愛護心の高揚を図る。

内　容　考古学の成果をもとに毎回違ったテーマで講義を行う。年１１回開講（内２回は古文書講座と合同）。また館外講師として、熊本県文化課職員、熊本博物館学芸員、熊本市文化振興課職員に依頼し、最新情報などについてお話しいただいた。

成　果　受講者数　１５４人（２月開講分まで）

備　考　最新の発掘調査情報等を取入れることによって、受講生により地域の歴史への関心を持たせることができた。複数年受講している人が多く、講義内容の選定にも苦労している。他部署の職員等に協力を得て、講義内容の幅を広げたい。また近隣の市町村にも情報提供していく必要がある。

事業名　古文書講座

目　的　古文書の購読や時代背景を学ぶことにより、歴史を学ぶ面白さを感じてもらう。

内　容　館外講師が設定した年間テーマに沿って、古文書の購読や時代背景についての講義。今年度は、「熊本の資料に見る幕藩関係」を主テーマとし、最新の情報を織り交ぜながらお話しいただいた。　年１１回開講（内２回は考古学講座と合同）

成　果　受講者数　３００人（２月開講分まで）

備　考　話の展開が面白く数年にわたって受講するものもあり、毎年４０名を超える受講生がある。本年も４２名の受講申し込みがあった。考古学講座同様複数年受講している人が多く、ホームページやマスコミ等を通して、他市町村への情報提供を行っていく必要がある。

事業名　学芸員と歩く野外博物館

目　的　資料館周辺に残る豊かな自然や文化財を訪ねその魅力を実感してもらい、自然や文化財への興味を持たせる。

内　容　資料館周辺に自生する野草や散在する遺跡や文化財を約２時間かけて探訪する。植物・考古の専門学芸員が同行し、解説を行う。４月７日・１０月１３日実施。

成　果　参加者数　９人

備　考　自然や文化財を肌で感じてもらうことができ、当館周辺に残る自然や文化財のすばらしさを伝えることができた。参加者が少ない。開催前からホームページ・フェイスブック等を利用したPR等　が必要他市町村への情報提供もしかり。

事業名　バックヤード体験教室（土器修復体験）

目　的　博物館の裏側を体験し、博物館の仕事について理解してもらう。

内　容　制作した土器のレプリカを使い、土器修復の疑似体験を行う。

成　果　参加者数　４人

備　考　博物館の仕事の一端を伝えることができた。レプリカ作成に時間がかかり、参加者も少ない。別の体験講座を考えていく。

事業名　各種体験教室（土器づくり、巴形銅器づくり、勾玉づくり、古代文様の文鎮づくり、編布づくり、埴輪づくり）

目　的　各種の体験を通して、考古や歴史、民俗の分野に興味を持ってもらうとともに、文化財愛護心の高揚を図る。

内　容　熊本市や熊本県内外に所在する資料を参考に古代の人々のモノづくりを体験する。年間１２回開催。

土器づくり：４月２１日（日）、５月４日（土）、８月９日（金）、
８月２５日（日）、１０月２７日（日）、１１月１０日（日）

巴型銅器づくり：４月２８日（日）、８月８日（木）

勾玉づくり：８月７日（水）

古代文様の文鎮づくり：１１月２４日（日）

編布づくり：１２月２２日（日）

埴輪づくり：１月２６日（日）

成　果　参加者数　１１８人　※熊本市外からの参加や複数の教室参加者が増加。

備　考　熊本市外からの参加や複数の教室参加者が増加。さらに参加者増を図るため、子供から大人まで参加可能な県内では実施の少ない「藍染」の体験教室を予定。

令和元年度入館者状況

（単位：人）

施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月	合計
塚原歴史民俗資料館	407	448	378	323	416	253	537	281	285	484	454	0	**4,266**

※休館日における学習投映を含む
※2月29日より新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

議事

（2）令和２年度事業計画変更事項について

１．展覧会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 32

２．博物館における教育・普及活動・・・・・Ｐ 36

３．保存修理事業関係・・・・・・・・・・・Ｐ 41

４．施設整備事業関係・・・・・・・・・・・Ｐ 42

５．塚原歴史民俗資料館関係・・・・・・・・Ｐ 43

６．その他・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ 45

〈熊本博物館関係〉

１．展覧会

（１） 特別展

事業名　特別展　KAGAYA 銀河鉄道の夜展

目　的　国内をはじめ欧米・アジアの累計 100 館を超えるプラネタリウムで上映され、観客動員数 100 万人突破という金字塔を打ち立てたプラネタリウム番組「銀河鉄道の夜」。その「銀河鉄道の夜」をテーマに、番組を手掛けた KAGAYA 氏のデジタルアート・星景写真を展示する。

内　容　特別展示室１・２・３

①プラネタリウム番組「銀河鉄道の夜」関連のデジタルアート

②KAGAYA 氏が撮影した星景写真

③その他：会期中に一日、KAGAYA 氏の講演会を実施（プラネタリウム室）

また、会期中にプラネタリウムにて「銀河鉄道の夜」を投映する。

期　間　７月１８日（土）～８月 30 日（日）（休館日・メンテナンス日を除く）

※新型コロナウイルス感染症対策のため次年度以降へ延期

事業名　特別展　波奈之丸再建 180 年記念

「細川家御座船　波奈之丸　～資料でたどる、お殿様の船旅～」（仮）

目　的　舟屋形が現存する六代目波奈之丸が再建されてから 180 年にあたるのを記念し、開催するもの。波奈之丸に関係する歴史資料、絵画作品などをはじめ、周辺諸大名が用いた御座船・参勤交代に関する資料などを展示する。また、熊本博物館への解体移築・修理に際して判明した構造・部材に関しても紹介。

内　容　熊本博物館特別展示室（第１室・第２室・第３室）

主な展示予定資料（以下、すべて予定）

特別展示室１「細川家御座船　波奈之丸」波奈之丸図屏風ほか

特別展示室２「九州の大名と御座船」（重要文化財）樗木家文書ほか

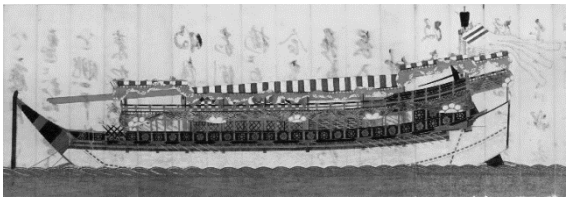
特別展示室３「鶴崎・川尻～肥後の二つの港」船大工・竹内家文書（当館寄託）

※期間中に専門家を招いての講演会を２回開催予定

対象者　一般市民

期　間　１０月３日（土）～１１月２３日（月・祝）

※新型コロナウイルス感染症対策のため次年度以降へ延期



竹内家船絵図「波奈之丸」

（２）企画展・共催展

事業名　企画展　「ひとのすがた、いのりのかたち －肖像彫刻の世界－ 」
目　的　平成 30 年度に文化庁の「日本の美再発見！文化財美術工芸品魅力開花推進事業費国庫補助」を得て修復が完了した重要文化財《木造東陵永璵禅師倚像》（所蔵：雲巌禅寺、管理団体：熊本市）について、修復後初公開を行うもの。
内　容　熊本博物館特別展示室（第１展示室・第２展示室・第３展示室）
《木造東陵永璵禅師倚像》の修復を記念して企画する本展では、熊本県内に残る肖像彫刻を中心に、実在したあるいは実在したとされる人物の姿を表すことに込められた人々の祈りのかたちを考える。
期　間　12月５日（土）～1月24日（日）※予定

事業名　企画展「震災を振り返る ―熊本地震から５年目・東日本大震災から 10 年目の記憶― 」
目　的　熊本地震発生から５年、東日本大震災から 10 年目の大きな節目を迎える 2021 年春に震災を振り返る展示を行い、各地で続く災害について改めて考える。
内　容　特別展示室１　熊本と自然災害
熊本の地を襲った数々の歴史的災害について、資料をもとにひも解く。
特別展示室２　「被災文化財」が語る熊本地震
熊本地震にて被災した文化財・救出された文化財を紹介する。
特別展示室３　大地が語る地震の記憶
様々な地点の断層地層剥取標本から記録されている地震の頻度を比較する。
２階階段周辺　多目的スペース
東日本大震災に関連するパネル展示
対象者　一般市民
期　間　３月20日（土）～（令和３年５月９日まで）

事業名　「いきものフェアくまもと 2020」
目　的　生物多様性について楽しく学べる参加型・体験型のプログラムの実施をとおして、私たちの暮らしが生物多様性に支えられていることや生物多様性を守ることの大切さを知り、市民自らが行動するきっかけを提供するもの
内　容　生物多様性の日イベントとして熊本市動植物園にて開催
（熊本博物館・動植物園・環境総合センター・環境共生課）
対象者　一般市民
期　間　５月９日（土）、５月 10 日（日）
※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

事業名　「地質の日」企画　身近に知る「くまもとの大地」
目　的　熊本の大地に関する普及・啓発
内　容　天草市民センター
　　熊本県内の大学・博物館・地質関連団体が共同で「くまもとの大地」に関する展示・イベントを行う。
対象者　一般市民
期　間　５月17日（日）
※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

事業名　共催展　熊本市遺跡発掘速報展
目　的　最新の熊本市内の発掘調査成果の公開
内　容　特別展室３
　　文化財課との共催で、立石遺跡等の出土遺物や解説パネルの展示
対　象　一般市民
期　間　12月５日（土）～1月24日（日）

（３）その他展示会

事業名　肥後しゃくやく展
目　的　栽培者はわずか数名で、一般の方が鑑賞できる機会は少ないため、熊本の伝統園芸として知ってもらい、貴重な鑑賞の機会とする。
内　容　塚原歴史民俗資料館
　　肥後しゃくやくを切り花で展示予定
対象者　一般市民
期　間　５月２日（土）、５月３日（日）
※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

事業名　肥後朝顔秋の展示会
目　的　熊本市動植物園
　　肥後六花の１つである肥後朝顔を一般の方々に鑑賞していただき、伝統園芸として広く伝え、普及・啓発を図る。
内　容　肥後朝顔秋の展示会
対象者　一般市民
期　間　９月４日（金）～９月６日（日）

事業名　蔵出し考古展 2020　熊本駅周辺の栄枯盛衰（仮）
目　的　熊本駅新装関連。駅周辺では二本木遺跡等幾多の調査で多くの成果が上がっているが、広く知られているとはいい難い。出土資料や解説パネルを展示して古代から

の移り変わりを展示し、多くの方々に考古資料の魅力と情報を伝えることを目的とする。
内　容　「奈良・平安時代」のケースを中心に二本木遺跡出土品などを展示する。
対　象　一般市民
期　間　11 月～

（4）プラネタリウム関係

事業名　プラネタリウム投映
目　的　星や星座、惑星などについて学ぶ機会を提供するとともに、天文・宇宙に関する情報発信を行う。
内　容　①天文・宇宙に関する様々な話題を紹介する一般投映番組とともに、職員の解説による星空案内を行う（投映日の夜空等）。
②幼稚園・保育園・小中学校の団体向けに、各学年の学習内容に応じた投映・解説を行う。
③幼児・家族向けのファミリーアワー、特別投映、聴覚障がい者向けの「字幕付きプラネタリウム（年内に１度開催）」等を実施する。
対象者　一般市民
期　間　４月１日（水）～３月 31 日（水）（休館日・メンテ日を除く）

事業名　天文講演会
目　的　天文・宇宙に関する最新の話題を研究者の生の声で伝える機会として、第一線で活躍されている研究者を招き、最新の天文学について講演いただく。
内　容　天文・宇宙分野において第一線で活躍されている研究者を招き、最新の天文学について講演いただく。令和２年度は 11 月に開催予定。
対象者　一般市民
期　間　年内実施（予定）

事業名　プラネタリウム特別投映
目　的　プラネタリウム活用の一環として、通常のプラネタリウム投映とは異なる特別なプログラムを投映する。
内　容　内容未定
対象者　一般市民
期　間　年に４回実施（予定）

事業名　字幕付きプラネタリウム
目　的　プラネタリウムの投映は映像と音声で構成されており、聴覚に障がいのある方にとっては、通常の投映は十分なものではない。そこで、聴覚に障がいのある方も、

そうでない方も一緒にプラネタリウムを楽しめるよう、字幕付きの投映を行う。
内　容　一般投映番組の字幕付き投映
対象者　一般市民
期　間　年に４回実施（予定）

２．博物館における教育・普及活動

（１）講座・講演会等

①　通年講座の開催

事業名　動物学講座
目　的　室内講座や野外観察を通して動物について学び、身近な自然に対する興味・関心を高めてもらう。
内　容　７月～３月まで奇数月に実施、全５回。小学４年生以上対象。室内学習や野外での観察会など。

事業名　植物学講座
目　的　室内解説や野外観察を通して植物について学び、身近な自然に対する興味・関心を高めてもらう。
内　容　９月～３月までの奇数月に実施、各回テーマを設定し、室内学習を行う。

事業名　地質学講座
目　的　化石・岩石・鉱物など、熊本博物館の地質資料や大地に関する普及・啓発
内　容　隔月での通年講座（屋内講座）
令和元年度は各回テーマ別での話題設定を行ったため、令和２年度は市周辺・県北・県南など、地域別の話題設定で新規受講者・令和元年受講者双方に向けた講座を予定。

事業名　考古学専門講座
目　的　遺跡立地の理由を探るもの
内　容　一般市民を対象として室内講座と現地巡り
日　時　～３月 18 日（木）の期間で 10 回程度開催

事業名　民俗学講座
目　的　室内講座を通して民俗学について、興味・関心を高めてもらう。
内　容　一般市民を対象に室内講座
日　時　８月～12 月の間　５回程度開催

② 野外活動・研究関係

事業名　化石観察会（夏・２０２１春）
目　的　化石や熊本の大地に関する普及・啓発
内　容　小学生以上の子どもたちや保護者を対象に、大型バスで化石産地に行き、露の観察や転石の採集などを行う。
日　時　夏休み・春休み期間中、もしくはその直前・直後の土日

③ その他の講座、講演会等

事業名　動物　自由研究相談会
期　間　７月２３日（木・祝）、８月２２日（土）
※新型コロナウイルス感染症対策のため期間を変更して実施予定

事業名　植物　自由研究相談会
期　間　７月２３日（木・祝）、８月２２日（土）
※新型コロナウイルス感染症対策のため期間を変更して実施予定

事業名　押し花グッズを作ろう
内　容　身近な野草を使って押し花の缶バッジやキーホルダーを作成する。
期　間　８月１０日（月・祝）

事業名　熊本市遺跡発掘速報展　講演会
内　容　速報展の見どころを紹介
　　一般市民を対象
期　間　１２月１３日（日）

〈　５月大型連休中の催し予定　〉

事業名　G・W！連休中は熊博へ
目　的　学芸班職員の専門性を活かし、GW 期間中に多様なイベントを開催することで博物館活動の多面的な魅力を伝える。
内　容　各学芸員・研究員が提供可能なイベント考え、内容を工夫して行う。
対　象　イベントにより対象は異なる（幼児から一般市民向けまで様々）。
期　間　５月２日（土）～５月６日（水）まで（５日間）の予定
※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

《実施内容　参照（一部）》

〇太古の化石「フズリナ」発見！　石灰岩の磨り出し体験
内　容　化石や熊本の大地に関する普及・啓発するもので、耐水ペーパーで石灰岩を磨き

上げて、含まれるフズリナの化石を観察する。
期　間　５月2日（土）　13：30～16：00

〇考古学はオモシロイ！！
内　容　常設展示と屋外展示の解説　一般市民
期　間　５月２日（土）午前午後２回開催

〇博物館周辺生きものウォッチング
内　容　博物館のまわりを歩いて、いろいろな生きものを観察する。
期　間　5月3日（日・祝）

〈　２月くまはく誕生祭の催し　〉
事業名　くまはく誕生月間イベント（２月）】
目　的　1962 年２月４日に開館した「熊本博物館の誕生月」にちなみ、２月の土・日・祝日に各種イベントを開催することで当館への市民の関心を高めるとともに、博物館活動の多面的な魅力を伝える。
内　容　各学芸員・研究員が提供可能なイベント考え、内容を工夫して行う。
対　象　イベントにより対象は異なる（幼児から一般市民向けまで様々）。
期　間　２月の土・日・祝日の予定

《実施内容　参照（一部）》

〇西南戦争遺跡巡り
内　容　熊本城炎上前日に、西南戦争に関係する段山や城内の遺跡を巡る。
対　象　一般市民対象
期　間　２月 18 日（木）

（２）学校教育支援事業

事業名　ゲストティーチャー派遣授業（お出かけ事業）】
目　的　博物館が有する価値ある収蔵資料および学芸員・研究員の専門知識や技能を学校の授業に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力の向上に寄与する。
内　容　学芸員・研究員を小学校「社会科・理科」の授業を中心にゲストティーチャーとして派遣する（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）。担任の指導を補佐しながら資料や専門知識を駆使し、学習内容の充実を図るとともに教育効果を高める（実施可能な範囲で派遣）。
対　象　主に熊本市内の全小学校の児童・生徒・教職員（９２小学校）
期　間　年度中

事業名　学校 PTA 活動支援/社会教育施設開催講座
内　容　自然科学への興味・関心を高めることを目的とした学年・学級 PTA 活動や公民館講座などに講師として参加し、内容の充実及び活動目的の達成のための支援を行う。※子ども科学・ものづくり教室で行っている科学実験・科学工作の中からいくつかの題材を選んで提供し、ともに活動を楽しむ（対象は主に小中学生）。
期　間　年度中

事業名　館内学習支援活動（お迎え事業)】
目　的　「館内学習プログラム集」を活用し、学校団体利用時のオリエンテーション等において館内展示資料（数点）の価値や魅力を紹介することで館内見学（学習）に関する興味・関心を高める。
内　容　見学オリエンテーションの際に、館内展示物の魅力や価値を紹介し、館内見学（学習）への期待感を高めるとともに、見学の視点を与える。団体予約時に館内学習プログラム集の中から１～２題材（１題材：１５分間程度）を選んでもらい、要請に応じて実施する。
対　象　小中学校団体全般（市内・外）
期　間　８月２４日（月）

事業名　博物館・スクールシャトルバス事業（お迎え事業）
目　的　小学校で社会科・理科学習がスタートする中学年（3 年生または 4 年生）の子どもたちを当館に招待し、未知・既知の学習資料の価値や魅力に触れる機会を提供することで、新たな学びへの興味・関心を高める。
内　容　上記の目的を達成し、併せて学校教育支援事業（博学連携）強化の一助とするため、地理的に遠方の学校と当館を結ぶスクールシャトルバスを借り上げて運行する。館内スケジュールについては学校と相談して決定することを基本とし、プラネタリウム学習投映、館内学習プログラム体験（1～2 本)、館内展示物見学等、博物館及び当館周辺での滞在時間を 4 時間程度に拡大して（令和元年度は 2 時間半程度）実施予定。
対　象　富合・植木・城南地区の小学校：12 校の中学年児童・教職員
期　間　年度中

事業名　理科実験事故防止講習会（市教委指導課主催）
目　的　理科実験中に起こりうる実験事故の防止対策につながる内容の講習会を行い、安全かつ適切な実験方法等について指導・助言を行うと共に、実技指導を通して教師自身の技能向上に寄与する。
内　容　近年起こっている実験事故の事例紹介と対策講話、火気・薬品・ガラス器具等の取り扱い方に関する実演指導を行う。例えば、アルコールランプの操作やガラス器具の加熱方法、気体を発生させる実験過程での留意点等について実技を交え

てポイントを伝える。
対　象　小中学校教師（教職員研修）
期　間　５月中に計２回実施
※新型コロナウイルス感染症対策のため中止

事業名　教職員研修等への協力支援（主催・参画・協力等）】
目　的　学校教育支援事業を補完する諸活動を実施し、博学連携の一層の充実を図る。
内　容　教職員としての資質・能力の向上に資するための事業への協力支援を行う。
夏季休業中の教職員講座「館内プログラム解説編」
小中学校「理科実験・事故防止講習会」
指導課・教育センター主催講座の補助
教科等主任会（社会・理科主任会等）からの要請講座
教職員・中学生社会体験研修　「教員のための博物館の日」実施協力
※博物館活動に親しむ機会を提供し、博物館の資料や事業は「授業に活用できる貴重な学習指導資源」であることを体験的に伝える場とする。
その他、上記の目的に沿う活動への協力
対　象　教職員
期　間　年度中

事業名　子ども科学・ものづくり教室
内　容　小中学生を主な対象として『科学実験や科学工作』などの直接体験の場を設け、身の回りの自然事象に対する興味・関心を高め、楽しく活動しながら科学の原理や技術（歴史や文化に関する内容も一部含む）について学ぶ機会を提供する。
※子どもの心に不思議の種（ふしぎだね）蒔きをする。色と光、振動と回転、空気と真空、電磁気、力学などをテーマとした科学実験・科学工作のほか、他分野の学芸員との連携による内容の充実を図る。また、大学や高専、教育サークル、NPO団体との協働イベントも実施し、より魅力的な運営を行う（対象は主に小中学生）。
期　間　年度中

（３）博物館実習受け入れ

事業名　博物館実習

目　的　博物館実習ガイドラインに基づき、当館の実情をふまえ、実習を公募の上、実習のカリキュラムを組み、行う。

内　容　実習期間：８月～９月　６日間

受け入れ：自然系　１０名

人文系　　８名

※実習生を出席状況と「実習態度」「理解・知識」「能力」「実務状況」に応じて評価する予定。

３．保存修理事業関係

事業名　紅糸威二枚胴童具足修復業務委託

目　的　熊本博物館所蔵「紅糸威二枚胴童具足」の劣化部分について、補修・補強を行う。

劣化した威糸については可能な限り原品を再利用し、使用不可なものについては新補する。

※今後の熊本博物館特別展・企画展で展示活用。



紅糸威二枚胴童具足（吉田家資料）

事業名　熊本博物館所蔵古文書等修復業務委託

目　的　熊本博物館所蔵「武家諸法度屏風（寛永度）」「加藤清正陣中旗」など、劣化が進行している資料の修復を行う。

※今後の熊本博物館特別展・企画展で展示活用。

４．施設整備事業関係

事業名　熊本博物館屋根及び外壁改修工事

目　的　熊本博物館にてリニューアル後に発生した雨漏りに対する改修工事及び、平成２９年度に先行して実施した外壁部分改修の未対応部分の改修工事を合わせて行うもの。

内　容

屋根改修工事

既存銅板葺きを残し、防湿用としてアスファルトルーフィングを敷き、その上に緩衝材を敷き、金属板を横葺きで屋根全体を覆う「カバー工法」にて施工。

防水改修工事

既存防水層の不良部分のみを除去し、適切な下地処理を行い、新規防水層をかぶせて施工する。

外壁改修工事

平成２９年度外壁部分改修実施した未着手部分の改修工事。

（当初、予定時期の目安は 2023 年度）

※実施時期は当初別々に計画されていたが、同時に実施することにより費用面や市民サービス面において適しているため一括した改修工事を行う。

なお、工事期間は休館せず、来館者へ配慮を行いながら開館したままでの改修工事を行う。

期　間　R2 年 10 月～R3 年９月（12 か月の予定）

予　算　３５４,000 千円（R２年度：141,600 千円、R3 年度 212,4001 千円）

参考

件名	R02												R03						
熊本博物館屋根及び外壁その他改修工事	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
準備																			
外壁・屋根足場架け																			
屋根改修工事																			
屋根足場撤去																			
防水改修工事																			
外壁足場撤去																			
外壁改修工事																			
完了検査																			

５．塚原歴史民俗資料館関係

（1）展示活動（企画展等）

事業名　収蔵資料展(仮題)
目　的　郷土の歴史や文化財についてより深く知ってもらうもの。
内　容　常設していない塚原歴史民俗資料館に収蔵する考古資料を展示。期間中は、ミュージアムトークや来館者向けの体験教室等も実施予定。
対象者　一般市民
期　間　１０月～１１月まで６０日間

（2） 資料館における教育・普及活動（講座・教室等）

事業名　考古学講座
目　的　講義を通して、学ぶ楽しさや考古学への興味をもってもらい、文化財愛護心の高揚を図る。
内　容　考古学の成果をもとに、毎回違ったテーマで講義を行う。年１１回開催（内２回は古文書講座と合同）。また熊本市文化振興課や熊本県文化課職員等に依頼し、最新の発掘調査成果等の話を織り込んでいる。
対象者　どなたでも
期　間　９月～３月

事業名　古文書講座
目　的　古文書の解読を通して時代背景をしることにより、歴史のおもしろさを学ぶ。
内　容　館外講師に依頼して実施。年間テーマに沿って、古文書の解読や時代背景について学ぶ。
対象者　どなたでも
期　間　９月～３月

事業名　学芸員と歩く野外博物館
目　的　塚原歴史民俗資料館周辺に残る豊かな自然や文化財を訪ね、その魅力実感してもらい、自然や文化財への興味をもたせる。
内　容　塚原歴史民俗資料館周辺の野草観察や遺跡の探訪。
対象者　どなたでも
期　間　１０月

事業名　各種体験教室（土器づくり・勾玉づくり・埴輪づくり・古代織づくり・編布づくり・藍染・）

目　的　各種の体験を通して、考古や歴史、民俗の分野に興味を持ってもらうとともに、文化財愛護心の高揚を図る。

内　容　熊本市に所在する資料などを基に作成した体験道具を使ったモノづくりや昔遊び、伝統的手法を体験する。

対象者　どなたでも

期　間　７月～３月

※新型コロナウイルス感染症対策のため「巴形銅器づくり・榎実鉄砲作り・古代のメダルづくり」は中止

6. その他

（1）広報活動（SNS 等）　（既に実施済）

事業名　SNS を活用した普及啓発及び広報事業

目　的　インターネットを介して、熊本博物館に関する各種情報を配信するため SNS を活用した情報提供を行うもの。

内　容　熊本博物館　公式　YouTube チャンネル、ツイッター@KCM_kumahaku
熊本市塚原歴史民俗資料館　公式 facebook
熊本市公式 facebook

対象者　一般

期　間　通年



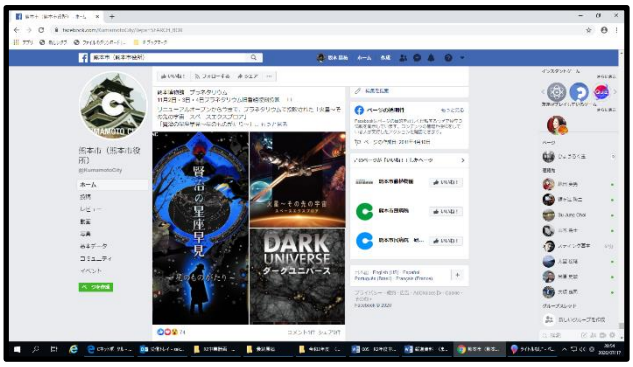
公式　YouTube チャンネル



公式　ツイッター



熊本市塚原歴史民俗資料館　公式 facebook



熊本市公式 facebook